

聖書日課 『からし種』 2022.11.27-12.4

<p>11月27日 (日) 民数記 9章</p>	<p>「イスラエルの人々は主の命令によって旅立ち、主の命令によって宿営した」(18節)。主の指示によって建てられた幕屋に雲が覆っている(夜は燃える日のように見える)時は民は宿営し、雲が昇ると彼らは旅立った。彼らはモーセを通してなされた主の命令に従い、主の言いつけを守った。主に従いきった民の姿は美しい、素晴らしい。</p>
<p>28日 (月) 民数記 10章</p>	<p>「主の契約の箱はこの三日の道のりを彼らの先頭に進み、彼らの休む場所を探した」(33節)。主の契約の箱がイスラエルの民の先頭を行き、彼らの休む場所を探し、彼らが宿営を旅立つ時、主の雲が導いた。モーセは主の力強い導きを祈り続けた。『主よ、帰ってきてください イスラエルの幾千幾万の民のもとに』私たちも主の伴いを祈り続けたい！</p>
<p>29日 (火) 民数記 11章</p>	<p>「主はモーセに言われた。『わたしの言葉どおりになるかならないか、今、あなたに見せよう』」(23節)。主はモーセに言われた。「激しく不満を言った民に伝えなさい。そんなに肉が食べなければ与える。それも1ヶ月に及ぶ」。モーセは主に言った。「男だけで60万人いる民に、1ヶ月食べさせる肉を何処から調達するのか」。主は大量のうずらで応えた。</p>
<p>30日 (水) 民数記 12章</p>	<p>「モーセは主に助けを求めて叫んだ。『神よ、どうか彼女をやしてください』」(13節)。モーセの姉ミリアムと兄アロンはモーセだけに語られる主を非難した。それを聞いた主は臨在の幕屋に3人を呼び語られた後、ミリアムに重い皮膚病を与えた。彼女を助きたいアロンはモーセに頼み、モーセは主に助け求めた。彼女は七日間の隔離の後癒された。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.11.27-12.4

<p>12月1日 (木)</p> <p>民数記 13章</p>	<p>「主はモーセに言われた。『人を遣わして、わたしがイスラエルの人々に与えようとしているカナンを偵察させなさい』(1～2節)。この偵察のために父祖以来の部族ごとに一人ずつ指導者が遣わされた。その結果、カレブ以外は「あの民に向かっていくのは不可能だ」と、進言した。巨人を目撃した彼らは尻込みし、主が先立たれることを忘れていた。</p>
<p>2日 (金)</p> <p>民数記 14章</p>	<p>「どうか、あなたの大きな慈しみのゆえに、…この民の罪を赦してください」(19節)。民の背信に主は怒り、彼らを殺そうとされたが、モーセの執り成しを主は聞かれた。しかし、土地の偵察に行つて悪い情報を流した者達は疫病にかかつて死んだ。偵察に行つた者のうち、ヨシユアとカレブは生き残つた。主に従順である事の大切さが分かる。</p>
<p>3日 (土)</p> <p>民数記 15章</p>	<p>「主はモーセに言われた。…『代々にわたつて、衣服の四隅に房を縫い付け、その房に青いひもを付けさせなさい』(38節)。これは民がその房を見る時、主のすべての命令を思い起こして守り、みだらな行いをしないため、とある。主はどこまでもイスラエルの神となる事を願い、民が神に属する聖なる者となる事を求めた。重い主の愛を感じる。</p>
<p>4日 (日)</p> <p>民数記 16章</p>	<p>「彼らは徒党を組み、モーセとアロンに逆らつて言った。『あなたたちは分を超えている。共同体全体、彼ら全員が聖なる者であつて…』(3節)。モーセとアロンに対する反逆者たちが主の怒りを買つて裁かれてしまう。「共同体全員が聖なる者ではないか」という彼らの主張には一理あるように思うが、彼らに一つ欠けていたのは、主に尋ね求めることではなかつたか。</p>